

チェルノブイリからフクシマへ

ヴラディーミル・チェルトコフ監督

来日講演

同時上映

「サクリファイス」
「真実はどこに？」



福島第一原発事故から5年、チェルノブイリ原発事故から30年。度重なる惨事にもかかわらず、原発政策が粛々と推進されていくのはなぜか？本企画では長年チェルノブイリ取材してきたヴラディーミル・チェルトコフ監督を講師に迎え、2本のドキュメンタリー映画を上映すると同時に、放射能汚染の実態を過小評価し、原発再稼働を図る国際原子力カロビーの問題について考える。

映画上映と講演

- 17:00 開場
- 17:30 「サクリファイス～リクビダートル（原発作業員）の知られざる真実」（25分）
- 18:00 「真実はどこに？～WHOとIAEA 放射能汚染をめぐる」（51分）
- 19:00 チェルトコフ氏の講演 & 質疑応答

通訳：コリン・コバヤシ



ヴラディーミル・チェルトコフ

ジャーナリスト、ドキュメンタリー作家。1935年、ロシア移民の子弟としてセルビアで生まれる。イタリア放送協会 (RAI)、スイス・イタリア語放送局 (TSI) のディレクターを30年以上務め、70本近いドキュメンタリーを制作。邦訳書に『チェルノブイリの犯罪』（緑風出版、上下巻、2015）がある。

コリン・コバヤシ

フランス在住のジャーナリスト、映像作家。『国際原子力カロビーの犯罪』（以文社）、『ゲランドの塩物語』（岩波新書）、『市民のアソシエーション～フランスNPO法100年』（太田出版）など、環境問題や市民運動に関する数多くの著作がある。

日時： 3月25日(金)

17:30-20:30

会場： 同志社大学 烏丸キャンパス
志高館 SK110教室 (定員130名)

入場無料・申込不要

同志社大学グローバル・スタディーズ研究科

Tel.075-251-3930 / E-mail: ji-gs@mail.doshisha.ac.jp

後援： ATTAC関西
NPO法人 環境市民

CNRS LIA：“Human Protection and Responses to the Disaster”